

NPOエコライフはままつ 様

初めまして、富高由紀子と申します。私は、マラウイ共和国の中部にあるミトウンドウ村の教員研修センター及び、その管轄内の小学校で、表現芸術科目の巡回指導を行っています。この度は、私たちの学校へ鍵盤ハーモニカとリコーダーをご寄贈頂き、誠にありがとうございました。新学期が始まった今年1月早々に、私の活動先へ楽器が到着しました。配属先のカウンターパート及び、教員、児童が大変喜んでおり、お送り頂いた楽器の活用用途など、活動場所の紹介も含め、貴様の尽力に対するお礼とご報告をさせていただきたいと思えます。

◆マラウイとミトウンドウ村の紹介

マラウイは、アフリカ南東部の国で、南北に伸びる細長い国で、日本の3分の1ほどの広さ北海道と九州を合わせた(ほど)です。電気と水道の普及率は、どちらも10%以下で、多くの人々が、夜は月明かりや懐中電灯、ロウソクなどで過ごし、水は井戸から地下水を汲み上げて生活をしています。

日本ではあまり知られていないマラウイですが、紅茶やタバコなど、日本にもマラウイ産の商品が輸出されています。また、戦争などの争い事が歴史的にほとんどないほど、穏やかな心を持つ国民性から、「ウォームハートオブアフリカ(アフリカの温かい心)」と呼ばれています。

私の任地であるミトウンドウは首都のリロングウェから南西に45kmほどの郊外にあります。首都からは車やバスなどで1時間ほどですが、電気や水道の通っている家屋はごくわずかで、ほとんどは電気・水道が全くない地域です。また、ガスの利用は一般的ではないので、私の知る限りでは見たことがありません。集落を繋ぐ道路は未舗装で、乾季には風で砂埃が舞い上がり、雨季には道が池や川のようになります。

ミトウンドウ村はこの辺りです。



マラウイ共和国
Malawi

Malawi 基本情報

- 人口:1,591万人
- 面積:11.8万km²
(北海道と九州を合わせた位)
- 首都:リロングウェ
- 公用語:チェワ語、英語
- 気候:雨季(11-4月)、
乾季(5-10月)
- 宗教:キリスト教83%、
イスラム教13%、その他
- GNI:320US \$
- 国家予算:2,000億円弱
- 成人識字率:87%
- 就学率:初等教育91%、
中等教育25%
- 貧困率52.4%
- 電力普及率8%



ミトウンドウの子どもたち



乾季の道路の様子

◆教員研修センターと小学校の概要

今回送付頂きました楽器各種は、私の配属先である「ミトゥンドゥ教員研修センター」へ寄贈させていただきました。この研修センターは、地区内の小学校11校と中等学校2校を管轄しており、定期的に教員へのワークショップ等が行われています。

小学校は、Standard1(小学1年生相当)からStandard8(中学2年生相当)まであり、地区全体では約19,000人の児童が在籍しています。授業は午前7:30から午後1時40分まで通しで行われ、給食はありません。10分休憩が2度あるものの、児童も教員も11時頃から空腹になり集中力が低下します。生徒数の多い学校は教室が足りないので、全体児童の半分以上が木の木陰で授業(青空教室)を受けています。また、最高学年は小学校卒業認定の国家試験がある為、朝5時頃から夕方、時には夜まで補習が行われます。



ミトゥンドゥ教員研修センター



メイン校の全校集会の様子

◆各種楽器の寄贈に際して

マラウイの公立学校では、Expressive Arts(表現芸術)の科目が週に5時間設けられています。日本の学校の、音楽・体育・図工・家庭科(裁縫)相当する科目と、マラウイの伝統ダンス・ドラマ・詩などが統合された教科です。いわゆる情操教育に関わる科目であるものの、授業のほとんどは教材及び予算不足を理由に、教師が児童に理論を教えて終わり、どの単元も実習がほとんど行われていません。教科書には音楽に関する内容も多く出てきますが、実際の楽器演奏を学ぶ機会はなく、現地で入手可能な太鼓を使用した踊りや歌が実習の内容となります。音階の出る楽器はないので、歌は伴奏なしのアカペラです。寄贈頂いた、音階のある鍵盤ハーモニカやリコーダーは、音楽指導にとっても有効的に活用できます。



センター長(中央)へ受け渡しの様子



授業の一コマ／伝統ダンス

楽器を寄贈していただいた直後、配属先の教員研修センター長(初等教育アドバイザー)からは、寄贈に対する感謝の言葉と共に、「早速、教員研修を行おう!」という、積極的なアプローチがありました。この言葉を教員研修センター長から頂いたのはとても大きなことだと確信します。なぜなら、これまでの活動を通して、マラウイの人は受け身で物事に取り組む傾向があると感じていたからです。

楽器演奏指導は各小学校を巡回しながら行っています。まずは教員へ指導後、その教員と共に子供たちへの指導を行います。教師たちはピアノカをマスターしたいといい、子供たちは、「あーだこーだ！ちがう、こーだ！！」など、音の変わる楽器に初めて触れ、演奏するのに苦労しながらも、皆、生き生きとしています。



熱心にピアノカ演奏習得に取り組む教師



教師が積極的に児童へ指導



今回頂いた楽器は、配属先の教員研修センターの下で管理され、センター管轄地区内の11校の小学校に分配し、教員と子供たちへ指導を行っていきます。また、教員向けの音楽及び楽器演奏指導を行う際にも使用させていただきます。音楽や楽器演奏を学べるという、与えられたこの機会を有効活用できるよう、教師研修センター長、各学校校長及び教員と話し合っていく予定です。

教員研修センター長はじめ、各学校の校長や教員及び子供たちが、新しい学びの機会を得られたことにとても感謝しています。ありがとうございました。



【報告者】
青年海外協力隊
平成26年度1次隊派遣
青少年活動(マラウイ)
富高 由紀子